

アルカスSASEBOでは、今回特集で取り上げた「文化のチカラ」を感じられる様々な取り組みにチャレンジしています！ここでは、直近のトピックスをご紹介します。

アルカスSASEBO 20周年を彩るアートプロジェクト



エントランスロビー大階段



アルカスSASEBO正面玄関

今号の特集で、お話を伺った石丸さんが運営するミナトマチファクトリーとアルカスSASEBOがコラボレーションした作品を設置しています。アルカスを「船」に見立て、市民のみなさんやアーティストたちが20周年をお祝いするイメージをイラストレーションで仕上げて頂きました。



トートバッグ

クリアファイルバッグ

作品展示

期間：令和3年3月23日(火)まで
場所：アルカス SASEBO正面玄関
エントランスロビー大階段

グッズ販売

販売場所：アルカスSASEBO 1Fチケットカウンター
●クリアファイルバッグ(1,500枚限定)
定価 300円(税込)
※アルカスクラブ会員価格：200円(税込)
●トートバッグ(300枚限定) 定価 1,500円(税込)
※アルカスクラブ会員価格：1,000円(税込)

アルカスSASEBO ファミリーコンサート in 吉井地区公民館

地元在住の演奏家が、アルカスを飛び出して生の演奏をお届けするアウトリーチコンサート。今回は、5月に新しく移転オープンした吉井地区公民館で、声楽、コントラバス、フルート、ピアノによる素敵な生の演奏を、楽器の説明などの楽しいお話と共にお届けします。



小田原 広子 (メゾ・ソプラノ) 松尾 律子 (ソプラノ) 谷口 正美 (コントラバス)



釣谷 玲水 (フルート) 永安 由香里 (ピアノ)

- 日時：令和2年10月17日(土)
13:30開場 / 14:00開演(14:45終演予定)
- 場所：吉井地区公民館 講堂(佐世保市吉井町立石473)
- 料金：無料(限定50名/9月1日(火)より先着申込)
- 申込方法：申込書を吉井地区公民館へ持参
または Fax(0956-64-2704)にてお申込ください。

お問い合わせ | アルカスSASEBO TEL 0956-42-1111

こちらも
チェック!
CHECK

毎月、市内文化施設のイベントカレンダーを佐世保市ホームページ、Facebook ページ「文化のチカラ」に掲載しています。

特集

文化のチカラ



文化のチカラ

VOL
14
2020
Autumn

文化って何の
役に立つのか
いろんな人に
聞いてみた。

(株)フォーオールプロダクト代表

石丸徹郎 Business
地方でアートがビジネスになる？

医療法人社団石坂脳神経外科 副院長

石坂俊輔 Health
コンサートのチケットを
病院で処方？

長崎県立大学 講師

石田聖 Sightseeing
「艦これ」と「佐世保」

文化って何の役に立つんですか？

証言

01

ビジネス

「(株)フォーオールプロダクト代表

いしまるてつろう

石丸徹郎さん」

佐世保を中心に、障がい者を「アーティスト」として捉えなおし、その作品づくりをビジネスとして成立させることで、障がい者の就労支援や生きがいづくりに取り組む(株)フォーオールプロダクト代表の石丸徹郎さんにお話を聞きました。

Culture
×
Business



1981年佐世保生まれ。映像・音楽業界勤務を経て26歳で福岡に企画制作会社を設立。引きこもりからの復帰支援企画で若年障がい者の直接支援を機に、若い世代に向けた就労支援の必要性を感じ30歳で就労福祉事業所を開設。「働くこと」,[生きること]の自主性と多様性に挑戦できるサービスを提供している。2017年には福祉プロダクトのリブランディングを目的とした(株)and.basicを設立。福祉のラベルを外して競争力を持つブランディングに取り組む。また、地域企業と役割を持つつながるための新しいコミュニティのあり方を追求する事業所デザインにも力を入れている。

地方でアートが ビジネスになる？

Q 地方都市でアートは
ビジネスとして
成立しますか？

マーケットを大きく捉えなおすことで、地方で商売的にもアートは成立すると感じています。それは、僕たちが取り組む観光で訪れる方向けのお土産づくりであったり、あるいは、大都市圏向けや、全国展開している企業さんの商品開発だったり。発想次第でここ佐世保、長崎で十分戦えますよ。障がい者であろうとなろうと、本来人はアーティストなのだと思えます。その力をうまく引き出し、さらに作品を商品として磨き上げることで、それが仕事になる。その間口を大きくしていきたいですね。



Q 福祉事業とアートを掛け合わせた
事業をはじめるときは
なんだったのでしょうか。

福岡の企画会社でイベントなどを手掛けていたときに、若者の引きこもりからの復帰支援に携わったことが福祉との出会いです。その参加者にプログラムが終了する際、何気なく「将来何をしたいの？」と尋ねたんです。するとその方は、障がいを抱えたまま社会に出て仕事ができるのかという不安から泣いてしまった。その時は、「この人たちの働き方の可能性を広げたい」と強く思いました。



そこで、2011年に就労移行支援事業所「ホットライフ」を設立し、利用者がデザインを学び、就労に役立てていただくという事業をスタートさせました。またある時、その事業に取り組む中で、参加者の方がメモ帳に描いていた「牡蠣」をモチーフにした絵が目に留まりました。その表現力に驚いて、布に印刷してポーチにしてみました。とてもかわいい商品が出来上がり、しかも売れたんです。その方にとっても僕にとってもそれは大きな発見であり、喜びでした。



Creative!

Q 仕事のやりがいは
なんですか。

ここに集まる方は、繊細な方が多く、それゆえ表面的なお付き合いが正直苦手です。逆に言えば、こちららも本音で向き合わざるを得ない。お互いうれしさも全力、ダメ出しも全力です。僕が頑張った分だけ本人たちも喜んでくれる、人の根っこ部分に触れることができるところにやりがいを感じますね。「気苦労が多いのでは？」とよく聞かれますが、僕自身は、彼らと一緒にエンターテインメントを作り上げるクリエイティブなパートナーと考えていて、それには本気のやりとりは必須です。むしろ本人たちのほうが僕に振り回されて苦労しているかもしれません(笑)。



Q アートは
何の役に立つと思いますか？

全国のコマダ珈琲店で導入された石丸さんの経営するミナトマチファクトリー所属のアーティストによる豆菓子パッケージ。温かみのある線画のタッチが好評とのこと。



Good job!

僕は、アートをビジネスの手段としても有効だと思っていますが、本当は、その人らしさを社会が認めてくれる一つのツールになるのではないかと考えています。小さい頃からありのままの自分を褒めてくれる大人が周りにいた子どもは、やりたいことや夢を素直に伸ばし、自分の居場所を自分で作っていくことができます。でも世の中、そんな人ばかりではありません。障がいを抱える人もその経験を持たない人が多い。僕たちが作る商品は、「福祉事業所」としてのラベルをあえて外すことで、「障がい者アート」という枠組みではなく、「純粹な個人の表現」として他者からの評価を受けとれるようにしています。厳しい面もありますが、それは、本人たち自身が身につけた「障がい者」であるというラベルをも剥ぎ取り、本当の生きがいを作りだしていくことに繋がるのではないのでしょうか。



「社会的処方」とはなんですか？

イギリスではじまった「病院が『薬』を処方することで患者さんの問題を解決するのではなく、『地域とのつながり』を処方することで問題を解決する」という手法です。

私も機会に恵まれ、現地に視察調査に伺ったのですが、医療と文化・芸術がより密接に連携できる可能性を感じました。



「社会的処方」になぜ興味を持ったのですか？

私の専門領域は脳卒中や認知症、脊髄など神経の病気です。神経の病気は後遺症が残ることがあり、それが原因で仕事や趣味を諦めている人を多く見てきました。また認知症を発症し、友人や周囲と距離を置いてしまい、その結果孤立したり、孤立によりさらに症状が悪化するという悪循環に陥る例も見てきました。そのような状況に対し、「医療ができることは一体何なのか」という問いが心に引っかかっていた。そんな時出会ったのが「社会的処方」です。社会的処方では医学的には解決できない症状が

あっても、その人の持つ強みに着目し、患者さんの幸福とは何か？ということに視点を置き、社会的処方とは人とのつながりや居場所 / 役割を提供することで医療がより人々の幸福に貢献できる仕組みです。実際にイギリスでは、かかりつけ医を受診する理由の20%が医学的アプローチでは解決できないという統計もあり、社会的処方が人々の幸福を向上させるといったエビデンスも出始めたことで、国から予算がついて本格的に社会実装され始めています。



「社会的処方」と文化・芸術にはどのような関連があるのでしょうか？

文化・芸術は、コミュニティで行われる様々なアクティビティの中でも、間口が広く、人の心に強く訴えかける力を持っています。文化や芸術はスポーツと同様、人々をつなげる力が強く、社会的処方の核となるものです。文化や芸術、音楽を通じて救われたという体験をお持ちの方も多いためです。イギリスでは病院が認知症の方に地域の手芸やコーラスサークルを紹介したり、脳卒中後遺症がある方が料理教室に参加できるようにサポートしたり、地域共同で農業を

する場（コミュニティガーデン）を紹介したり、様々な試みが行われています。病院で「薬」「手術」以外に「文化・芸術」が処方され、それを通じて繋がりを取り戻していくイメージです。イギリスでは病院で社会的処方専属のリンクワーカーという職種が活躍しており、医師と密接に連携します。当院でも取り組みを始めましたが、日本流にアレンジするには、まだまだ試行錯誤といった段階です。これからも病院の内外でいろんな挑戦をしていきたいですね。

社会的処方？

文化って何の役に立つんですか？

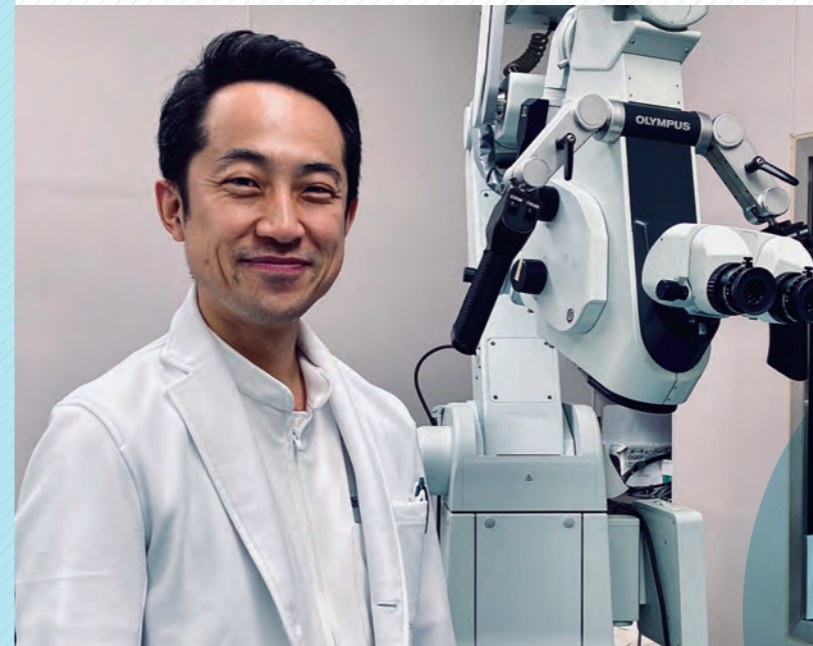
証言

02

健康

Culture × HEALTH

現代医療では解決困難な健康にまつわる諸課題を、コミュニティや文化の力で解決する「社会的処方」というイギリスで進む、新しい取り組みについて、石坂脳神経外科の石坂俊輔さんに聞きました。



医療法人社団石坂脳神経外科 副院長

いしがかしゅんすけ

石坂 俊輔 さん

1979年佐世保市生まれ。医学博士。山口大学医学部卒業後、脳神経外科専門医を取得。2014年より米国スタンフォード大学脳神経外科留学。帰国後、川棚医療センターを経て、現在、石坂脳神経外科副院長。2019年、国際長寿センターの視察メンバーとしてイギリスの社会的処方を視察し、日常診療での実践に取り組む。

医療法人社団 石坂脳神経外科

1989年、佐世保市卸本町で開設。「かかわる全ての人に夢を」を理念に、脳疾患にかかわる救急からかかりつけ診療、生活を支える介護まで、一貫して提供している。

来るかもしれない!?
病院で処方される時代が
コンサートのチケットを



「役立つ」のですか？ ずばり医療に文化・芸術は

「役立つ」可能性があります。体と心の健康や幸福感（ウェルビーイング）と、人とのつながりや社会活動には深い関わりがあることが証明されており、社会的健康の決定要因（SDH；Social determinants of health）として近年注目されています。文化・芸術は健康で幸福な人生を実現する上で、必要不可欠なツールであり、医療と関連する新しいキーワードとして「社会的処方」という言葉があります。



英国・ネルソンヘルスケアセンター視察中の石坂さん



英国・ロンドンで「社会的処方」の受け入れ（ダンス）を行う様子





Q そもそも「艦これ」ってなんですか？

正式なタイトルは「艦隊これくしょん - 艦これ -」と言って、プレイヤーが「提督」となり、実在した多くの艦艇を擬人化したキャラクター（艦娘）を育てて、自分だけの強力な連合艦隊を編成するというゲームなんです。また、アニメやマンガなどメディアミックス的に派生した作品が数多く作られているのも大きな特徴で、現在のゲーム登録者数は400万人を超えられています。



Q イベントはどんなものだったのでしょうか？

「艦これ」には、ゆかりのある艦だけでなく、重要な地名として「佐世保」も登場することもあって、地域活性化のために有志が集まり誘致、開催にこぎ着けたということです。2回目となる今回は、スタンプラリーやライブ、市内飲食店とのコラボレーションが拡大し、イベント専用のラッピングバスや、航空便も登場して大きなごわいを見せました。



← 佐世保にゆかりのある艦（艦娘）である「時雨」等をあしらったラッピングバスも登場しました。

「街をあげての開催に感謝！今は少し佐世保回りに陥っている」

「佐世保の歴史に触れながら街を巡れてよかった」
熱いメッセージ

（来場者）
提督から寄せられた
熱いメッセージ

佐世保鎮守府に所屬するなど、佐世保とゆかりの深かった艦船「時雨」をモチーフとした艦娘。

© DMM / C2 / KADOKAWA
© C2Architecture All Rights Reserved.

総括

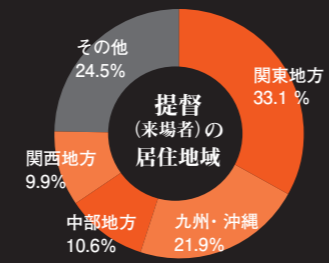
地域にゆかりのある作品をテーマにしたコンテンツツーリズムは、観光はもちろん、佐世保ファンを増やす大きな可能性を秘めています。佐世保では、近代にいたる歴史のなかで、明らかになっていない部分も多く、まちの成り立ちを考え、魅力的な観光発信をしていく上でもより多くの研究が必要です。これが本物の佐世保の文化として根付くには、傾聴すべき改善意見に向き合いながら、地域とコンテンツの関係者とファンが互いに信頼関係を構築すること。そして、市民自らが佐世保の地域の歴史や文化的資源、それにまつわるコンテンツを深く理解し、受け入れていくことが大事だと思います。

Q 今回の調査でわかったことを教えてください！

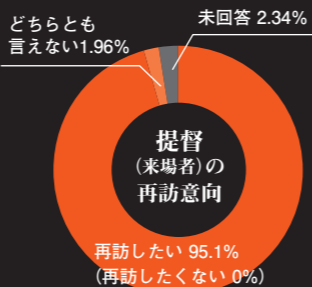
県立大学では、このイベントが佐世保市にどんな効果をもたらしたのか提督（来場者）の方々に1,000人規模のアンケート調査を行いました。来場者数のインパクトはもちろん、20代~30代の若者、そして県外、特に都市圏からの旅行者が多く、満足度や、再訪したいという意向がとて高いこと、イベントに合わせて市内の周遊にも繋がったことがわかっています。



どこから佐世保にきましたか？



また佐世保に来たいですか？



長崎県立大学 講師

いしだ さとし

石田 聖さん

1983年佐世保市生まれ。熊本大学大学院にて博士後期課程（公共政策学）を修了、渡米。客員研究員としてカリフォルニア州立大学、ポートランド州立大学で、市民参加、公民協働の研究に従事。2016年より長崎県立大学講師。専門は政治学、公共政策学。現在、佐世保市文化振興委員会委員。



佐世保市教育委員会所蔵

第一次世界大戦の凱旋記念館として大正12年に建設された市民文化ホール。戦後は米軍がダンスホールとして使用していました。今回のイベントでは、全国から集まった提督たちの熱い熱気に包まれました。

証言

03

観光

文化って

何の役に立つんですか？

佐世保の近代、そして佐世保の文化を語る上で不可欠なのが「旧日本海軍」の歴史。例えば、当時海軍の最先端技術が惜しみなく投入された施設群は「近代化遺産」として市内に数多く残されています。昨年9月、市内で開催された「130th SASEBO 2019」艦これ「佐世保鎮守府巡り」は、4日間で2万人を超える来場者を集めた大きな話題になりましたが、これらの歴史や海軍由来の文化も大きく関係していたこのイベント。独自に調査を行った長崎県立大学の講師 石田聖さんにお話を聞きました。

Culture × Sightseeing

